

新規実施項目のお知らせ

謹啓 時下ますますご清栄のこととお喜び申し上げます。
 平素は格別のご高配を賜り厚くお礼申し上げます。
 このたび、下記の検査項目を新たに受託開始いたしますので、
 ご利用いただきたくご案内いたします。
 当社におきましては皆様のご要望に幅広くお応えすべく研鑽
 を重ねてまいりますので、今後とも引き続きお引き立ての
 ほどよろしくお願い申し上げます。

謹白

記

■ 実施日 2020年10月12日(月) ご依頼分より

■ 新規項目内容一覧

項目 コード	検査項目 JLAC10	検体量 (mL)	容器	保存 (安定性)	所要 日数	実施料 判断料	検査 方法	基準値 (単位)	備考
8736 1	IV型コラーゲン・7S 〔CLEIA〕 <small>5C135-0000-023-052</small>	血清 0.5	S09 ↓ A00 (X)	冷蔵 (23日)	2~4	148 ※4	CLEIA	4.4以下 (ng/mL)	

※4：生化学的検査（I）判断料

今回の新規項目受託開始に伴い、下記項目の受託を中止させていただきます。

項目コード	項目名	受託中止日
5367 4	IV型コラーゲン・7S	2021年 3月 31日(水) ご依頼分をもって受託中止



● IV型コラーゲン・7S〔CLEIA〕

CLEIA法を用いた、より高感度に血中IV型コラーゲン・7Sを測定する検査です。

近年、慢性肝疾患では、非アルコール性脂肪性肝疾患（NAFLD）や非アルコール性脂肪肝炎（NASH）が増加しており、NASHの病態把握においては肝線維化のモニタリングが重要視されています。

IV型コラーゲン・7Sは、基底膜の構成成分であるIV型コラーゲン分子におけるN末端の7S領域を指し、タンパク分解酵素の影響を受けにくいため血中で安定していることが知られています。

正常な肝臓の類洞中には基底膜は存在しませんが、肝線維化が起これば基底膜構成成分が分泌され沈着し、IV型コラーゲン・7Sが血中に漏出します。

IV型コラーゲン・7Sは、肝線維化の比較的早期から血中に増加することから肝線維化の指標として有用で、NAFLDとNASHの鑑別マーカーとしても期待されています。肝疾患の慢性化に伴い増生・蓄積される線維化の量を知ることは、疾患の治癒や予後の判定に極めて重要です。

▼疾患との関連

肝癌、肝硬変、慢性肝炎（活動性）
非アルコール性脂肪性肝疾患（NAFLD）
非アルコール性脂肪肝炎（NASH）

▼関連する主な検査項目

IV型コラーゲン、オートタキシン
P-Ⅲ-P
Mac-2結合蛋白糖鎖修飾異性体

▼検査要項

検査項目名	IV型コラーゲン・7S〔CLEIA〕
項目コードNo.	8736 1
検体量	血清 0.5 mL
容器	S09 → A00 (X) ポリスピッツ
保存方法	冷蔵保存してください
所要日数	2~4 日
検査方法	CLEIA
基準値	4.4以下 (ng/mL)
検査実施料	148点 (「D007」血液化学検査「39」)
判断料	144点(生化学的検査(I)判断料)
備考	

●参考文献

大高木 結媛, 他: 医学と薬学77 (5) : 785~792, 2020. (検査方法参考文献)
豊田 秀徳, 他: 肝臓59 (8) : 377~383, 2018. (臨床的意義参考文献)